

ブロック活動報告

東武伊勢崎線沿線ブロック

今年度も、「春日部市学童保育の会」の皆さんの協力のよって、春日部市内で定例会議を開催できました。98年に市内すべての民営学童を公営化された春日部ですが、それ以降も保護者会及び連協の活動を続けられ、がんばってこられました。近年、民営時代を知る方も少なくなり、いろいろとご苦労もあるようです。現在18ヶ所学童がある中「保育の会」への参加は半数を切っているようですが、それ以外の学童からも代表に集まってもらい、代表者会議を開き、市内ほとんどの学童の連係に努めているそうです。今後も東武ブロックにご協力ください。東武(東部)ブロックは、結構南北に長く春日部に平日の夜集まる事が出来る地域は限られてしまいます。しかし今年度も春日部の方をはじめ幸手・加須・越谷・八潮・草加・宮代・久喜・三郷そして、さいたま市と合併が決まっていた岩槻の方も参加してくださいました。菖蒲・北川辺は幸手・加須の方が代理でした。

さて、定例会ですが県連協から報告とお知らせ、各地域の報告、沿線交流会の打ち合わせなどが毎月の議題ですが、会場のあしすと春日部が9時半までなので、地域の報告によっては議論や質問が白熱して終了時刻を過ぎ、注意されてしまうこともしばしばありました。

大規模化の問題では草加や春日部が、市の合併による色々な問題は岩槻・幸手・宮代と、小学校や学童の統廃合・分割で幸手・八潮・三郷などで色々ありました。また16年度草加では指定管理者に「草加・元気っ子クラブ」が指定され、2ヶ所の学童を今までの民営学童と共に運営することになりました。更に17年度に新しく出来る2ヶ所についても指定管理者になるようです。

今年度の沿線交流会は山崎隆夫氏を講師にお迎えして草加市で講演会を開きました。会場や準備などの都合、参加される方の都合などを考慮して半日で済むように、ここ何年かはしてきました。今回も午前中の講演会のみとなりましたが、交流(分科会形式)をメインにした方がたくさん参加があるのかと迷うところです。以前は200名ほどの参加がありましたがだんだんと減ってきて昨年今年と100名強の参加者です、各地域連協の加盟率の低下等もありましようが、魅力あるプログラムが提供されていないことも一因でしょう。

17年度はもう少し沿線交流会について時間を掛け、16年度より多くの参加が見込まれる、プログラムを検討したいと思います。お忙しいとは思いますが、たくさんのご意見があるとより良いものが出来ると信じています、東武ブロックへ出席またはご協力をお願い致します。

山崎隆夫氏；静岡県生まれ、東京の公立小学校現役教師

今泉博氏他と編著で「教師力」「生活指導力」「授業力」「学級経営力」(旬報社刊)等がある

今回の講演は「子どもの生きる姿をどう読むか」をメインテーマに子どもの願いをどう受け止めるかを先生の体験、実践を基にお話いただきました。

京浜東北・高崎・宇都宮沿線ブロック

今年のブロック会議は、中心となる人選ができないで、半年ほど経過してしまい、活動が始まったのは年度の後半になってからでした。そのため、交流会の準備もなかなか進まず、企画をしながらも中止にせざるをえない状況でした。しかし、後半の活動は、地域のふれあいと報告というテーマに沿って、2月に川口、3月に北本というようにブロック会議の場所を移して行いました。

会議の中心は指定管理者問題と次世代育成行動計画という話題で多くの時間が費やされました。指定管理者問題では、北本市の状況、さいたま市の状況、上尾市の状況等が多く語られました。また、桶川市の父母の方の出席をいただきまして、公設公営の学童の状況も聞くことができました。公設民営、民設民営の学童との比較をすることでお互いの状況の違いに驚いたり、意見を交換したりすることができました。

基本的には、多くの沿線の地域交流の掘り起こしをメインにして、様々な問題点を提起し、話し合いのうちに解決に向けて、意識を共有することを目的化することがよいのではないかと思います。沿線の役割は、県連協の大きな活動範囲の穴を埋めることであり、地域密着型の会議形態を演出すべきだと感じました。京浜・高崎沿線ブロックの活動はちょっと停滞気味ですが、お互いの顔を知り合うくらいの感覚で集える環境を作っていくことが必要なのではないかと思います。

東武東上沿線ブロック

定例活動

毎月第3水曜日、沿線の中ほどにあたる川越市を会場として、保護者、指導員、専従事務局員とが情報交換と交流を行ってきました。従来からのベテランの面々に加え、親が学童指導員で自身も学童に通っていた「第二世代」のフレッシュなメンバーも加わり、夏の暑気払いには県から森川専従、新年会にはOBをゲストに迎えるなど、相変わらず元気なブロック活動が展開できました。

我がブロックの活動の継続性とその充実した内容を支えてきた、沿線各連協の専従事務局員のみなさんに改めて敬意を表します。日常の緊密な連携と、例年の経験の蓄積があったこそ、ブロックが新たな課題に取り組む力が生み出されることを実感した一年でした。

話題は、指定管理者制度の先例となった和光市の「下新倉学童クラブ」に係る活動報告と情勢の分析、県基準活用促進事業を利用して施設拡充を実現した東松山市の取り組みの学習、労働法の原則を無視した日高市の委託基準改悪についての討論、上福岡市との合併を控えた大井町の問題などのほか、鶴ヶ島市や坂戸市で取り組むNPO法人運営の視点を紹介してもらったり、2千名近い入所希望を抱え独自に実践交流会を行っている川越市の実力を見せられたり、各地で「次世代育成支援地域行動計画」策定に取り組んだ成果を交流したり、と多彩な内容を取り上げて参加者それぞれの認識を深めることができました。

沿線のつどい

12月12日、朝霞市「ゆめばれす(市民会館)」において第24回となるつどいを開催しました。地元市や社協などの十分な協力が望めない中で、地元朝霞市の父母を中心に新座市や和光市の父母・指導員が現地実行委員会を結成して奮闘してくれました。

参加費を千円に値上げしたにも関わらず、310名の参加を得て大成功となりました。

記念講演は『虐待・子どもの事件から - 大人にできることは』と題し、埼玉新聞記者の小宮純一氏から、豊富な取材と深く子どもを見つめてきた視点からのお話を聞きました。大人が作り上げる「ゆがみ」に巻き込まれ、信頼感を持たず成長する子どもたちの心のケアの重要性について、学童保育への熱い期待を語ってくださいました。

各分科会も、70名を集めた「指定管理者制度」や助言者に県から薄井会長を迎えた「県運営基準と大規模問題」など、それぞれ充実した内容で行うことができました。

来年は川越で開催する予定です。未だ関わりがない地域からも参加を広めましょう。

(文責：柄澤 悟)

西武沿線ブロック

今年度はブロック会議の開催は一回のみで終わってしまいました。担当者の意識が低かったと反省しています。

事務局同士では、飯能市が統一化されたことによる情報の交流やノウハウの提供もありましたが、沿線連協としての活動は全く行っていません。2市の活動での発展性を視野に入れて、沿線連協の必要性や位置づけをそれぞれのクラブの会があらためて考え、それを持ち寄り西武沿線連協の新しい活動のスタイルをつくる必要があります。

狭山市と入間市の合併が検討される中、合併後の学童クラブの課題や沿線の役割を検討し同時に沿線連協への参加を呼びかける手がかりとする必要を感じていましたが合併が白紙に戻りました。

狭山市と入間市の沿線連協参加への働きかけに、長年にわたって本腰を入れられないことについて、指連協西武沿線ブロックと共にあらためて参加の意義を確認することから始めなければなりません。

< 飯能市の活動 >

16年度より統一運営になりました。運営に関しても指導員の待遇に関しても、まだまだ不備な点がありその都度話し合っていて進めています。学童数は少ないものの各クラブの特徴があり評議員会ですり合わせをし、理解を得ながら今後も作り上げて行きたいと考えています。

16年度は加治げやきクラブが公設になり飯能市では公設が一巡したものの、老朽化が進んだり、児童数が増えたため手狭になったり、施設の面で問題が出てきています。

児童数が増えたのと同時に障害児の利用も増え始めました。

地域に根ざした学童クラブをつくるため、今後も保護者と指導員が一つになってよりよい組織をつくるよう努めていきます。

< 所沢市の活動 >

保育料の人件費の抑制で黒字化を目指したが、2003年度末の一つのクラブに対する市の一方的な委託の打ち切りにより厳しい運営となった。

このような状況の中でも『子どもの生活をゆたかにしよう』を方針の柱として活動してきた。

県の運営基準の考え方をもとに、大規模化により第二くれよんクラブの運営を始めた。

市の次世代育成支援推進行動計画策定委員に2名が参画。『学童保育の整備・充実』を盛り込むことができた。

保護者と指導員による地区会議を全地区で定期的で開催した。

2006年度単年度黒字を目指し経営委員会を設立。

各クラブでの地域でのつながりを深める活動と合わせて、市民フェスティバルでダンボール迷路とベーゴマ大会を開催。第二回学童まつりを開催。

広報誌を3号発刊。

(文責 遠藤)

北部ブロック

はじめに 北部ブロックは、熊谷市・深谷市・本庄市・秩父市を中心とした市町からなる、埼玉県北部の田園地帯に広がる地域です。県連協の他のブロックと大きく異なる点は、農村地帯が主となっているため、比較的保守的な空気が強く、学童保育に対する認知度が行政側にも住民側にもまだまだ低いという感じがしています。またエリアが広いことから、一箇所に集まっての会議の参加も負担が大きく、前述したように農村地帯のため、会場への道程も暗がりが多い（狸やイタチが出没?!）等悪条件が重なり、参加者がどうしても少なくなる原因にもなっていると思われる。

活動内容 会議は毎月の開催が困難になり、一昨年から奇数月の第2金曜日午後8時から10時（時間内に終わった記憶なし!）を基本とし、深谷市・川本町の2ヶ所のクラブを交互に会場としています。会議の内容は、最初に国、県の動きについて、県連協の運営委員から報告し、その後各学童クラブから状況報告や問題提起をいただき、当面する課題等について意見交換をしています。しかし隔月開催のため当然のことながら、情報が古くなったり対応が後手後手になる等の問題が生じています。また学習会開催の打合せ時間も十分にとれず、中途半端なままの開催を余儀なくされています。

学習会 1月30日美里町「遺跡の森」ホールにて開催いたしました。昨年参加者の負担を考えて、半日みの日程とし、昨年は分科会形式だったことから、今年は講演会形式とし、家庭教育カウンセラー・内田玲子氏を招いて「親と子の愛のキャッチボール」と題した講演会を開催いたしました。しかし、活動内容でも触れたように、講師の選定や日程の調整（県連協研修会との被り）、会場の確保等に要する打合せ不足により、500人のホールに参加者104人（保護者43人、指導員55人、その他6人）で、空席が目立つ状況になってしまいました。この学習会は、ブロック内の保護者・指導員が集まり交流を深めることのできる唯一の場であるにも拘らず、特に父母の参加者が少ないことは、今後のブロックの存在意義にも関わることであり、きちんと反省をした上で、今年度に活かしていかなければなりません。

おわりに ブロック内には2005年度に、4つ（熊谷市、深谷市、本庄市、秩父市）の枠組みの市町合併と、1つの町村合併が予定されています。（秩父市は4月1日に既に1市・1町・2村で合併）合併前のこれらの自治体における学童保育の施策については、各々で大きな隔りがあり、合併後において全ての自治体で、高いレベルへの調整が行われる保障はありません。埼玉県は学童保育の先進県ではありますが、北部ブロックに限っては必ずしもそうではありません。自らの学習・運動を怠っては前進はありません。アンテナを高くし視野を広げるためにも、地理的ハンディを乗り越えて、県連協主催の学習会や研修会等に積極的に参加し、保護者・指導員が一体となったブロック活動を展開していくことが、今後益々重要になってくると思われます。

（文責：小川博史）

障害児学童保育ブロック

施策・補助を改善させるとりくみ

1, 県こども家庭課及び教育局特別支援教育課に対してはたらきかけます。障害児施策の改善を図るために、埼玉県との話し合いを軸に運動を進めました。また、ブロックの定例運営委員会では各自治体の情報交換を行ったほか、定例会議の議題の1つとして、「各学童保育の自治体へのはたらきかけ」について討議しました。

（1）2005年度の予算要求内容とその解説は次の通り 略

（2）障害児学童保育ブロック独自の県との懇談 10月19日 於埼玉会館
県こども家庭課から小峰主管と中島主査が出席しました。

【県側のその後の回答】

基本的には、対象数増には対応していく。

現在、対象となっていない児童を含める問題、「重度」児童3対指導員1、「その他」6対1の問題については重点要求していきたい。対象を変えることについては資料をとって要求していきたい。

・障害児学童保育との話し合いでは、「デイサービス事業」等他の制度の話もしたが、実際に雇っている、指導員などを増やしていることを訴えていく。1対1というのは...

（3）県連協全体での話し合い 11月17日 於シーノ大宮センタープラザ 略

（4）対象児童の緩和が実現

05年度予算で、指導員配置の改善は実現しませんでした。対象児童の緩和は実現し、なかよしクラブが県補助の対象クラブとなりました。

2, ブロック運営委員会の中で、それぞれの学童保育の運営実態と課題、市町村に対してのはたらきかけを交流し学び合います

10月の運営委員会で交流しました。交流のために、各学童保育から、各クラブの総会方針議案書、予算・決算書、行政への要望書などを公開し合いました。

3, 県次世代育成行動計画協議会への意見公募へのとりくみ

11月に出された「中間とりまとめ案」について、県は意見公募（パブリックコメント）を求めました。

12月23日（祝）の県庁主催の公聴会において障害児ブロックから5人（ポプラ、たけのこ、なかよし）が発言しました。

また、意見公募（パブリックコメント）に対して意見・要望を組織し、障害児学童保育と関わって3人（わんぱく、ポプラ、朝霞市保護者）の意見が寄せられました。

4, 県自動車税事務所に行ってきた 12月10日

参加は、たんぼぼ、たけのこ、わんぱく、県連協事務局の4人。
課税第二担当課長の青葉辰美さんと担当の滝田さんが出席してくれました。お二人とも、親身になって丁寧に話を聞いてくださいました。

以下のような回答がされました。

・皆さんの事業にとって車両が必要であることは分かった。私たちは、その事業にとって必要であるものについては減免の対象にしてあげたいと考えている。

・歴史的に、減免対象となるものは付加されてきた。しかし、こういう財政が厳しい時代になってきて、新しい減免は困難。現在、財政が厳しいこともあって「見直し」がかかっている。「医師」車両については今年度で廃止。「公益法人」についても税制度全体の見直しに入っているところで、プラス・マイナスで見直すということはある。

研修活動

1, 県連協主催研修会の内容づくりと参加 略

2, ブロック運営委員会内(保護者と指導員)での学び合い

2月の定例運営委員会で「NPO法人ポコ・ア・ポコ」の代表で元たけのこの保護者の山本恵子さんを講師に「『生活サポート』を学ぶ」と題した学習会を行いました。

3, その他

全国障害者問題研究大会 8月6～8日 於長野県
埼玉から4クラブ4人と県連協1人、計5人が参加しました。

学童保育同士の交流

1, 12月の冬の運動会の開催 12月27日、於上尾養護学校
14クラブから約300人の子ども、保護者、指導員が参加しました。

2, その他

近隣の学童保育相互に連絡を取り合い、合同保育 他の学童保育へ見学の交換研修 等もされました。

障害児学童保育づくりの支援 略

「全国放課後連(障害のある子どもの放課後保障全国連絡会)」の動き、ブロックの関わり

1, 8月に発足総会 8月7日 於長野県

全国から約100人が集まり、全国組織への期待の高さがうかがわれました。会費の額は保留となりましたが、当面の活動方針・会則・役員は出席者の拍手によって承認され、全国放課後連が旗揚げすることになりました。

全国組織加盟は、4月末現在で19都府県となりました。
埼玉・千葉・東京 滋賀・徳島・福岡・栃木・群馬・愛知・京都・和歌山・神奈川・福島・静岡・広島(準備会)・鹿児島(準備会)・兵庫(準備会)・大阪(準備会)・岡山(準備会)

2, 厚生労働省が05年度予算案に「障害児タイムケア事業」が実現

(1) 経過

8月27日 厚生労働省が2005年度予算に向けて新規事業「障害児タイムケア事業」(仮称)の概算要求を行なう(要求額は10億700万円)

10月7日 全国放課後連として厚生労働省の担当者との懇談を行ない、「障害児タイムケア事業」(仮称)についての説明を受ける。

11月26日 全国放課後連として「障害児タイムケア事業」(仮称)についての見解を発表し、会員・関係者から意見を求める。

12月16日 会員・関係者からの寄せられた意見を踏まえ、全国放課後連として「障害児タイムケア事業」(仮称)についての要望書を厚生労働省に提出する。

12月24日 2005年度予算案が発表され、厚生労働省の予算に「障害児タイムケア事業」が盛り込まれる(予算額8億500万円)

(2) 全国放課後連の基本的な評価と今後の取り組みへの呼びかけ

1. 「社会福祉基礎構造改革」など今の国政の流れの中で“利用者負担問題”などが入り込んではいない。しかし、新規事業として予算化されたこと、および「障害児タイムケア事業」の事業目的には全国の関係者のニーズが反映している。「障害児タイムケア事業」実施の問題を大きな視野からとらえたい。

2. 条件のあるところでは、「障害児タイムケア事業」を実施するように自治体に働きかけ、この事業を広げる。利用者負担の軽減を自治体に訴えることも大事になる。“国も事業の必要性を認めた”という事実をもって自治体独自の施策も実現・充実させる根拠としたい。

3. 「障害児タイムケア」事業をよりよいものとして発展させるために事業の改善要求を全国から集め、全国放課後連として厚生労働省に働きかけを行なう。単価引き上げなど支援費制度の「児童デイサービス」の改善を求めるとともに、「障害児タイムケア事業」

と「児童デイサービス」が整合性を持って発展するように求める。障害者施策を充実させる運動の一翼を担いながら新しい制度の確立と「児童デイサービス」の改善を求めるという全国放課後連の「当面の活動方針」に則って行動したい。

3 , 会議・催し、とりくみの経過 略

4 , 埼玉の障害児学童保育ブロックとして

事務局のメンバーとして小泉（風の子）、中村（たけのこ）、森川（県連協）を選出してきました。

8月の発足総会に向けてブロックとしても方針案、規約案について討議しました。

その他

こども・夢・未来フェスティバル 3月13日（日） 於埼玉県民総合活動センター
障害児学童保育を知らせるために、障害児学童保育を知らせる展示コーナーを設ける形で参加しました。また、バナナキッズ、風の子が模擬店を出展しました。

各学童保育から、パネル 紹介パンフレット（30部ずつ）

また、時間毎に店番を決めて、お客さんに、パネルや障害児学童保育の紹介をしました。

| | | | |
|------|---------|-------|-------|
| 8:45 | 11:00 | 13:30 | 15:30 |
| さとっこ | モンキーポッド | さくら | |
| すきっぷ | | ぼしえっと | |

定例運営委員会、指導員会としての活動

ブロック全体会議を開催しました 6月27日（日） 於さいたま市産業文化センター
新年度当初に、ブロックとして年間活動方針とブロック独自の会費等を定めるためにブロック総会全体会議を開催することを決め、開催しました。20クラブ、43人が出席しました。その場で、次のことを決めました。

会議を北部＝熊谷ないし上尾（昼）、南部＝さいたま市風の子（夜）の交互に開催することになりました。

県連協会費（児童数に応じて5,000～22,000円）以外に 全国組織等に関わって独自に会費（5,000円）を徴収することを決めました。

5,000円の内訳

全国組織の会費500円＋全国会議等参加交通費3,000円＋指導員会活動費1,000円